

2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

ふりがな 氏名	まえだ みつひろ 前田 充洋
(研究テーマ名) ヴェルヘルム二世治世下ドイツにおけるクルップ社の対外商業活動	
(研究活動実績) <p>2013 年度においては主に①海外での研究活動、②論文の執筆をすすめた。</p> <p>①:報告者は 2012 年 12 月 1 日から 2013 年 10 月 2 日の期間において日本学術振興会「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」の助成を受けビーレフェルト大学アンゲリカ・エップル教授のもとに留学し、クルップの対外商業活動とくに日本にむけた活動にかんする研究を進めた。留学期間中は(a)エッセンのクルップ歴史文書館での史料調査、(b)エップル教授のゼミナールでの研究報告および(c)ベルリンの連邦文書館での史料調査をおこなった。(a)クルップ歴史文書館においては、クルップ社の在日本代理人と取締役会との間の書簡や、日本に輸出する製品における工場の対応についても史料を調査した。(b)ゼミナールでの報告内容は(a)の成果をもとにクルップ社の日本にむけた対外商業活動についておこない、エップル教授ほかゼミナール生たちからも有益な指摘を受けることができた。(c)連邦文書館での史料調査にかんしては、クルップ社の在日本代理人や在日本の外交官と帝国海軍局との間で取り交わされた書簡や外交文書を中心に閲覧した。主な内容は日本の軍備にかんする状況や他国の日本との取引にかんするものである。また 10 月 2 日に帰国した後に大学院研究会での研究報告に加え、「頭脳循環プログラム若手研究者ミーティング」において次年度被派遣者のまえて、「ビーレフェルト留学体験記」と題してビーレフェルト大学での研究状況から生活環境にいたるまでを報告した。</p> <p>②:論文は昨年末に受理され「修正のうえ掲載」可の評価をいただき、年度の前半に加筆修正を終えたうえで再投稿した。その論文は『西洋史学』248 号に掲載された。①で得た研究成果も文章化し論文として雑誌に投稿する計画である。いっぽうで『西洋史学』への掲載論文を受けて、2014 年 3 月 29 日に開催される早稲田大学高等研究所と「軍隊と社会の歴史研究会」共催シンポジウムにおいて報告する機会をえた。その報告にむけて現在鋭意準備中である。</p>	